

Wakanシリーズ

侘茶の祖と言われる村田珠光は、中国の「唐物」と日本独自の文化の融合を「和漢の境をまぎらかす」と表現しています。「wakan」は中国の天目茶碗や、朝鮮の高句麗茶碗から進化させた茶碗の姿をベースとして、吹きガラスならではの表現で進化させたものです。茶碗としてのみならず、現代の生活に合った様々な使い方をしていただければ幸いです。



義山四方馬上盃

馬上盃は腰に下げて馬上で酒を飲むために使われた盃で、高台が高く紐通し穴がある特徴がある。仁清作の馬上盃は細い脚に小さな台が付き、四角い上部が特徴的。ガラス製の今回の盃は、仁清の斬新な馬上盃の姿とガラスの素材を組み合わせ、現代のライフスタイルに合わせて様々な用途で楽しめるよう設計されている。



茶碗 義山三玄院天目 黒金縁

天目茶碗は中国の宋時代に生まれ、禅僧によって日本に伝えられた。建窯で焼かれた黒い釉薬と「スッポン口」が特徴で、日本でも瀬戸などで写しが作られた。仁清も三玄院天目を作り、大徳寺に寄進した。今回の茶碗は、仁清の三玄院天目の姿をガラスで再現したもので、伝統的な茶碗の姿とガラスの素材を組み合わせている。



茶碗 義山繭形 青透明

野々村仁清は高麗茶碗の写しから徐々にオリジナルの形を作り出し、代表的な茶碗の一つが繭形茶碗である。今回の茶碗は、仁清の繭形茶碗の姿をガラスで再現したもので、伝統的な茶碗の姿とガラスの素材を組み合わせている。抹茶碗としてだけでなく、様々な使い方で楽しめる。

袱紗 新色登場！！



朱



菜花



紅鬱金

宗和流の袱紗に新色が登場。

今回折り方を変え腰につけたとき紋が見えるようになりました。
寒色・暖色の着物にも合わせやすいような色のバリエーション。

※既存の花色と紺色は在庫がなくなり次第終了となります。

南鐐シリーズ

南鐐 宗和好槌棗

南鐐（純銀）の板から鍛金の技法でつくった棗です。打ち出の小槌のような形は、宗和好の真塗の棗を写したもので「槌棗」と名前が付いています。こちらは寒鴉齋好として全体を石目打ち、面取りの部分を磨き仕上げにいたしました。蓋を開けると立ち上がりから内側にかけて球体のように丸くなっており、お茶を入れると緑がよく映えます。



南鐐 鴉菓子切

宇田川宗光が得度し、寒鴉齋の号を授かった記念に制作した鴉の菓子切。



作家：小原 ゆかり

伝統的な鍛金と彫金の技法で茶道具や器、装身具などの金属工芸品を製作。大阪に工房を構える。